



ユネスコスクール

**問** 加盟のメリットはたくさんあるが、加盟が進まない理由は。

**答** 加盟校には、法的拘束はないが、各校は積極的な活動が求められ、ユネスコ本部に報告書の提出が必要で、それが加盟に進まない一つの理由と考えている。

**問** 世界の学校と交流ができるなどメリットは多く、周知が必要。ユネスコスクールにおける教育長の考えは。

**答** 本市は人権を尊重し、自然環境を守り、文化の多様性を守る取り組みを進めている。各校では「学校・地域パートナーシップ事業」を行い、このような活動を充実・発展させる中で、ユネスコスクールへの誘導を図って行きたい。

一般質問  
大保由香子 (練政)

地域の特性を活かした  
しごとをつくる

**問** 市長の施政方針の「地域の特性を活かしたしごとをつくる」項目で、具体的にどのような仕事に対して、どのような施策、支援を考えているのか。

**答** 正規雇用の多い製造業に対し、企業進出のインセンティブになる補助を前向きに検討している。空き店舗を活用した開業に対して助成する「空き店舗対策事業」等さらには拡充し、にぎわいと新たな雇用の創出を図る。今年度飛鳥地域で通訳ガイドに係る特区の認定を受け、通訳ガイドの育成を行っていく。さらに、産官学連携による土産物やグルメの創出や、近隣市町村合同の企業説明会の開催など、関係機関と幅広く連携していきたい。

**問** 多くの女性が働き、活躍できる環境整備は全国的な課題だが、働く女性に対して本市が行っている支援は。

**答** 長時間労働の見直し、ライフイベントに対応した多様な柔軟な働き方の整備、育児・介護休暇などの支援体制の充実が必要である。本市は平成24年度よりハローワークと共催して「女性のための就職面接会」を実施し、今年度は2月に事業所4社の就職面接会および起業を目指す女性のための相談会を開催した。延べ31名の女性が参加し、仕事と生活の両立がしやすい事業所として好評だった。女性の再就職や、若い女性の自立を目的とした「就職応援セミナー」も開催している。今後も両事業を継続して女性の就労支援や、男女ともに働きやすい職場づくりに向けた施策を進めたい。

**問** 子どもがいても気兼ねなく働ける環境が必要だと考える。今はイクメンと言われる育てる父親が活躍している時代なので、男女の区別なく、大きな形での支援をさらに広げてもらいたい。市長の考えは。

**答** 女性が子育てをしながら働く上での負担やストレスに

対して、社会として、地域としてしっかりと受け取れるような施策をとっていくべきと考える。啓発運動や、行政としてしっかりと施策をつくって応援をしていきたい。



榎原市男女共同参画行動計画

若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる

**問** 平成27年の国勢調査で生涯未婚率が男性22.8%、女性13.4%と、男女とも過去最高値を更新し、男性の約4人に1人、女性の約7人に1人が生涯未婚と言われているが、施政方針の「若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる」ために、今回新たにどのような施策、支援を考えているのか。

**答** 婚活支援は2年前から各イベントを行っており、特に平成29年度は、出会いの場だけでなく、参加者が出会いを生かせるサポート体制を整え、

「イルミデ街コン」、「飛鳥リレーマラソン」等を行う。今年度から新たに一般の不妊治療の費用助成を実施する。妊娠・出産から切れ目のない子育て支援として、新たに、子育て世代包括支援センターの準備を進めている。このセンターでは、現在の産前産後のサポート事業に加えて、29年度から利用者支援事業（母子保健型）と産後ケア事業を実施する。産後ケア事業ではおおむね生後2カ月までの新生児がいる家庭で、家族などからの十分な産後の援助が受けられない方を対象に家事援助サービスの提供を予定している。

**問** 若い世代が結婚するに当たっての必要な知識や心のあり方など、いろんな準備が男女ともに必要であると考え、結婚の意味を考え、結婚式の重要性や気持ちと言葉で伝えることの大切さなどを学ぶのが婚育と呼ばれており、男女ともに婚育がこれから重要になってくると考えるが、市の考えは。

**答** 「結婚したいと思う人を支援する」事業として平成28年度から「かしはら結婚サポ